令和7（2025）年度 事業計画

令和6（2024）年度事業の進捗と課題

①安定経営のための基盤強化
ホイスコーレ利用希望者の多様化から、利用者・保護者・地域ニーズが刻々と変化していることに気づき、常に多くの手段をもって正確な情報を入手することに努めた。
今後は、これらのことを法人理念に照らしながら、柔軟な法人運営を実施していくことが課題。

②就労事業の再構築
ロート製薬からの施設外業務は途絶えたが、下期に、「医薬部外品製造業許可」「化粧品製造業許可」を取得し、新たな就労事業の準備を行った。更に、複数の業者より大ロットの内勤作業を受託した。
地域で暮らすための工賃支給と利用者個々に合った働き方を実現するために、施設外就労と内勤作業のバランスの見直しが課題。

③利用者の安全・安心
感染対策を段階的に緩和し、食事の「共食」の他、行事、余暇等の活動に積極的に取り組んだ。
利用者個人の生活や余暇についても、それぞれのQOLを最優先した支援に取り組むことに努めているが、グループホーム住人を対象とした支援に留まった。
看護師を配置し、医療対応が必要な利用者の健康管理を行うと共に、日常的に電話やSNSによる医療相談を実施したが、高齢化や既往症により健康を害する利用者が増え、十分な対応はできていない。
利用者個人の防災備蓄品を備えると共に、大規模災害に対応した事業継続計画（BCP）の修正と更新を実施し、更に防災研修のブラッシュアップに取り組んだ。

④職員の安心・やりがい
65歳定年以降の継続雇用について就業規則の見直し、併せて、職員の「働き方」の多様化、最低賃金のアップ、物価高、これら社会情勢を踏まえ、職員が納得できる給与規程の見直しを実施。
新規採用1名の実現。

⑤地域連携と貢献
法人単独としての地域貢献は一定の評価を受けるレベルであり、多くの職員がその任に当たっているが、限られた資源（ヒト・モノ・金・情報）の中で限界を痛感。今後は、他法人との共同体制による重層的・継続的な

令和6（2024）年度経営の課題

◆外部環境の変化
大規模災害発生想定とその対策
利用者、保護者の福祉サービスに対するニーズの多様化
労働環境および労働条件向上への対応（最低賃金アップ等）
社会情勢の不安定さ
物価高騰（インフレ基調）への対応

◆内部環境の変化
職員年齢層のアンバランス
就労支援事業の不安定さ（仕事の確保・支援力）
正規職員複数名の退職（願）

令和7（2025）年度事業運営方針

①継続的成長のための組織強化
生涯発達支援の考え方に基づく、支援のあり方改革（菅野理論による論理的支援の組み立てと実践）＊
利用希望者をお断りしないための組織体制（システム）づくり
会計システム変更に伴うスムーズな移行と経営分析による提言や助言＊

②就労事業の再編
就労支援の目的、事業組織、職員体制（専門性）、法人内での役割と位置付けの明確化
施設外就労活動の独自性とブラッシュアップ
取引業者（作業種目）の精査

③利用者の安全・安心
日中活動（作業以外）における目標、目的の共有と課題の抽出とプログラムの見直し
看護師を中心とした専門職からのアドバイスによる、利用者個々の状況に応じた健康管理サポート体制の構築
事故の未然防止・あらゆる災害を想定した事業継続計画（BCP）の追加と更新

④職員の安心・やりがい
職員の潜在能力の発掘と、組織の活性化のための人事異動の推進
職員それぞれの持ち味と能力が発揮できる職場、労働環境と役割の提供
組織の活性化（職員の採用・定着・やりがい）を目的とした規則・規程類の改定
職員の資質向上を目的とした、研修目的の明確化と復命及び改善提案の場の設定
職員採用計画（新採・中途）

⑤地域連携と貢献
移動支援従事者養成研修講座の開設＊
(新事業)就労選択支援事業の実施準備＊
伊賀市社会福祉法人連絡会への積極的な参画

＊に関してはPT（プロジェクトチーム）を立ち上げる

令和7年度方針
～「生涯発達支援に基づく寄り添い力」を高める～

令和7（2025）年度事業収支計画（案）

単位：千円

令和6年度資金収支予算（第2次補正）	令和7年度当初資金収支予算
収入444,844千円	収入422,286千円
事業活動収入431,140 福祉事業 361,946 就労事業 69,194	事業活動収入421,651 福祉事業 357,171 就労事業 64,480
施設整備等 3,774	施設整備等 525
その他の活動 9,930	その他の活動 110
支出434,789千円	支出427,563千円
事業活動支出422,306 福祉事業 349,171 就労事業 73,135	事業活動支出418,293 福祉事業 340,923 就労事業 77,370
施設整備等 10,017	施設整備等 6,984
その他の活動 2,466	その他の活動 2,286
収支差10,055千円	収支差▲5,277千円

◆ 考 察
新規利用者4名
移動支援従事者養成講座の開設準備（公益事業）
就労選択支援事業開始に向けた情報収集と職員体制
就労定着支援のふっくりあハウン廃止とふっくりあホイスコーレへの移行

◆ 投資・修繕事業

移動支援従事者養成講座開設準備	1,000千円
ひまわりマルシェ	千円
助成申請による車両の更新	400千円
びいはいぶ（菖蒲池）雨漏り修繕（1次補正にて）	見積実施中

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

社会福祉法人維雅幸育会は、国連が2030年までに達成をめざす「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、積極的に福祉事業に取り組みます。
そして、SDGsについて様々な角度から考え、SDGsが掲げる「誰も置き去りにしない」世界の実現を目指します。

事業推進重点施策

《事業運営方針に基づく重点項目》

①継続的成長のための組織強化
・奥西統括を中心に「生涯発達と支援領域(菅野理論)」を学ぶPTを実施(令和7～9年の3年間)
・利用希望者をお断りしない支援環境の基礎作りと支援力の向上
・山田管理者を中心に税理士事務所・会計システムの変更をスムーズに完了させ、丁寧な経営分析に取り組む

②就労事業の再編
・就労支援の重要性を全職員で共有し、種目を量より質に移行させ、計画性のある経済活動を実践していく
・施設外就労活動の更なる安定化を目指し、企業と新たなパートナーシップ関係を構築するべく検討を継続する（合弁会社の設立やアライアンス契約等を模索する）
・取引業者ごとに利用者の働く姿と金額の適正化を確認し、法人全体でのバランスを構築する

③利用者の安全・安心
・生活介護における日中活動内容の目標と目的を全体で共有し、合同・単独に捉われず支援方法、内容を精査、分析し次に繋げていく取組みを行う
・利用者個々の環境、状況に応じた健康管理と看護師を中心とした専門職による傾聴とアドバイスの体制継続
・安心と安全が実感できる事業継続計画(BCP)の追加、ブラッシュアップを行う

④職員の安心・やりがい
・短期、中期に関わらず目的が明確であり、対象者が納得するキャリアデザインを明示する
・職員採用を、魅力あるプレゼンが出来るよう担当者養成を行い、面接会、SNS等を活用し、継続的に行う
・職員の学びがダイレクトに伝え、活かせることが出来る職場環境を整える

⑤地域連携と貢献
・移動支援従事者養成研修講座の開設のためPTを立ち上げ、準備・調整等を行う
・地域の声を大切にし、「必要とされる社会福祉法人」を他法人との連携のもと作り上げていく

《各事業所・部門重点項目》

【上野ひまわり作業所】（生活介護・B型）
・健康維持と機能低下予防のため、外部講師を招いた運動プログラムの実施
・人と関りながら役割を実感できる活動を充実させるため、サロン的な空間での活動に取り組み、併せて興味関心が高い音楽療法の回数を増やす
・意欲を持って働けるよう、個々の状態に合わせた作業時間・内容・工賃単価を再設定する

【びいはいぶ】（B型）
・利用者個々のアセスメントを取り直し、今後の働き方について見直しを行う
・利用者の状態に応じた施設外就労と内勤作業を組み合わせながら、標準月額工賃70、000円を目指す
・多様なケースに対応できるよう、他事業所との情報共有や連携強化のために定期的なケース会議を実施

【ふっくりあハウン】（B型・定着）
・利用者それぞれにあった働き方が提供できるよう、日課や環境の見直しを行う
・内勤作業において、他事業所と連携して作業の充実を図るとともに増収を目指す
・月額平均工賃32,900円/月の実現

【ふっくりあフウス】（生活介護・生活訓練）
・利用者それぞれに合った活動が提供できるよう、活動全体の見直しを行う
・生産活動の充実を図り、すべての方が生産活動に参加できるようにする
・他事業所と連携して、運動・生産活動以外の活動の充実を図る
・精神障害の方や外国籍の方など、幅広い方の見学や体験の受け入れを積極的に行う

【ふっくりあモォンマール】（A型・B型）
・製菓製パン部門において、全ての工程(製造・販売・管理等)で利用者が自主的に製造に取り組めるよう活動の見直しを行う
・販売活動において、他事業所との連携を促進する
・A型における施設外就労活動に参加できる利用者を増員する
・B型における月額平均工賃35,000円/月の実現

【ふっくりあホイスコーレ】（生活訓練・就労移行）
・職域開拓を行う（ガソリンスタンド、安永清掃、食堂皿洗い、市役所の事務補助など）
・働きながら単身生活を送るイメージづくりに取り組む(短期入所事業と連携してココウット1階ワンルームを活用)
・新事業「就労選択支援事業」を円滑に開始するための準備を行う

【特定相談】
・可能な限り本人の意思を聞き取る姿勢で計画相談に取り組む（意思決定支援）
・今ある能力について事業所と確認し、豊かな生活実現に取り組む（エンパワメント）
・新事業「就労選択支援事業」への対応に取り組む

【グループホーム】
・個々の生活スタイルを見据えた生活支援。（住環境・食生活・外出・余暇）
・看護師による健康相談の継続と、健康の維持管理。持病や高齢の利用者への適切なバイタルチェック
・自主避難を想定した避難訓練の継続

【事務】
・会計新システムの導入　・新たに契約する税理士事務所の指導による会計事務の見直し
・本部事務・事業所事務の役割を明確化した連携の見直し　・請求事務の標準化

【医務・ヘルパー】
・認定看護管理者(非常勤)の指導のもと、利用者の多様なヘルスケアニーズに対応し、個人の健康とQOLの向上に取り組む
・利用者の個別サービスのニーズ対応するため、ガイドヘルプサービス計画書の作成に取り組む

【給食】
・「おいしい給食」を提供するために、献立・食材・味・環境の見直しに取り組む
・「楽しい給食の時間」となるよう利用者が参加できる給食事業に取り組む

【全体事業】
・ひまわりマルシェの開催（旧ひまわりバザー）　・虐待防止の取り組み及び全体研修の継続
・日帰り旅行の実施　・新年会・二十歳の集い・還暦祝賀会の開催

【事業所更新】　・るーなこむり・るーなこむり短期入所　R8年 3/31